

看護小規模多機能型居宅介護 風蝶木の実 ケイパハウス

運営規程

(目的)

第1条 この規程は、社会福祉法人喜創会が設置経営する指定地域密着型サービスに該当する看護小規模多機能型居宅介護 風蝶木の実 ケイパハウス（以下「当事業所」といいます。）の適正な運営を確保するための人員及び管理運営に関する事項を定め、要介護状態にある高齢者（以下「利用者」といいます）に対して適切なサービスを提供することを目的とします。

(基本方針)

第2条 要介護者が可能な限り、住み慣れた地域でその人らしい暮らしが実現できるよう、通い、訪問、宿泊等を柔軟に組み合わせることにより、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、必要な日常生活上の援助を行い、利用者がその有する能力に応じその居宅において自立した日常生活を営むことができることを目的とします。

(運営方針)

第3条 当事業所で提供するサービスは、利用者一人ひとりの人権を尊重し、その人がその人らしく家庭的な環境の下で日常生活を送ることができるようサービスを提供します。

2. 当事業所で提供するサービスは、介護保険法並びに関係する厚生労働省令、告示の主旨及び内容に沿ったものとします。
3. 利用者が住み慣れた地域で生活を継続することができるよう、地域住民との交流や地域活動への参加を図り、利用者の心身の状況やその置かれている環境を踏まえて、通い、訪問及び宿泊を柔軟に組み合わせることにより、サービスを提供します。
4. 当事業所の運営にあたっては、地域住民又はその自発的な活動等との連携及び協力を行う等地域との交流を図っていきます。
5. 当事業所のサービス提供にあたっては、看護小規模多機能型居宅介護計画に基づき、漫然かつ画一的にならないように、利用者が日常生活を営むことができるよう必要なサービスを提供します。
6. 当事業所では、居宅サービス事業者や他の保健医療機関との密接な連携を図り、サービスを提供します。
7. 当事業所のサービス提供にあたっては、利用者に身体的拘束その他利用者の行動を制限する行為は行いません。但し、利用者又は他の利用者等の生命を保護するため緊急やむを得ないと判断した場合は、その様態及び時間、その際の心身の状況及び緊急やむを得ない理由を記録するものとします。
8. 当事業所のサービス提供にあたっては、あらかじめ利用者または家族に対し、サービスの提供等について、わかりやすく説明を行います。
9. 利用者が通いサービスを利用していない日においては、可能な限り、訪問サービスの提供、電話による見守り等を行い、生活を支えるための適切なサービスを提供します。

10. 利用者の要介護状態の軽減または悪化の防止に資するよう、その目標を立て、計画的に行います。

11. 提供する当事業所のサービスの質の評価を行うとともに、定期的に外部の者による評価を受けて、それらの情報を公表し、常に改善を図ります。

(事業所の名称)

第4条 事業所の名称は次のとおりとします。

看護小規模多機能型居宅介護 風蝶木の実 ケイパハウス

(事業所の所在地)

第5条 事業所の所在地は次のとおりとします。

滋賀県彦根市極楽寺町596

(従業員の職種、員数及び職務内容)

第6条 事業所に勤務する従業員の職種、員数及び職務内容は次のとおりとします。

(1) 管理者 1人

事業を代表し、業務の総括にあたります。

(2) 介護支援専門員 1人以上

利用者及び家族の必要な相談に応じるとともに、適切なサービスが提供されるよう、利用者の居宅サービス計画及び看護小規模多機能型居宅介護計画（以下「居宅介護計画」といいます。）の作成の取りまとめ、地域包括支援センターや他の関係機関との連絡・調整を行います。

(3) 看護職員 常勤換算方法で2.5人以上

利用者の健康状態の把握を的確に行うことにより、利用者に対し適切な介助を行います。

(4) 介護職員 13人以上

当事業所のサービス提供にあたり利用者の心身の状況等を的確に把握し、利用者に対し適切な介助を行います。また、宿泊に対して1人以上の夜勤職員を配置します。その他自宅等で暮らしている方々に対して緊急時に対応できる職員を1名以上配置します。

(営業日及び営業時間)

第7条 事業所の営業日及び営業時間は次のとおりとします。

(1) 営業日 年中無休とします。

(2) 営業時間

①通いサービス（基本時間）9時～17時

②宿泊サービス（基本時間）17時～9時

③訪問サービス（基本時間）24時間

④看護サービス（基本時間）9時～17時

※緊急時及び必要時においては柔軟に通い、訪問及び宿泊サービスを提供します。

また、上記の営業時間の他、電話により24時間常時連絡が可能な体制とし、利用者の要請に基づき、営業時間外の対応を行うこととする。

(利用定員)

第8条 当事業所における登録定員は29人とします。

(1) 1日に通いサービスを提供する定員は18人とします。

(2) 1日に宿泊サービスを提供する定員は9人とします。

※但し、通いサービス及び宿泊サービスの利用については、利用者の様態や希望等により、特に必要と認められる場合は、一時的にその利用定員を超えることはやむを得ないものとする。尚、災害その他のやむを得ない事情がある場合は、この限りでない。

(提供するサービスの内容)

第9条 当事業所の提供するサービスの内容は次のとおりとします。

(1) 通いサービス

事業所のサービス拠点において、食事や入浴、排せつ等の日常生活上の必要な援助を提供します。

①日常生活の援助

日常生活動作能力に応じて、必要な介助を行います。

ア. 移動の介助

イ. 休養

ウ. 通院等の介助やその他必要な介護

②健康チェック

血圧測定等の利用者の身体状態の把握

③生活リハビリ（機能回復訓練）

利用者が日常生活を営むのに必要な機能を維持するための生活リハビリ及び利用者の心身の活性化を図るための必要な援助を行います。また、外出の機会の確保その他利用者の意向を踏まえた地域社会生活の継続のための支援を行います。

ア. 日常生活動作を通じた機能回復訓練

イ. レクリエーション

ウ. 地域活動への参加

④食事支援

ア. 食事援助目標による個別援助

イ. 食事の準備

ウ. 食事介助及び見守り支援

⑤入浴支援

ア. 入浴援助目標による個別援助

⑥排せつ支援

ア. 排せつ援助目標による個別援助

イ. 利用者の状況に応じて適切な排せつの介助

⑦送迎支援

利用者の希望による、ご自宅と事業所間の送迎サービス

(2) 訪問サービス

【介護サービス】

利用者の自宅にお伺いし、食事や入浴、排せつ等の日常生活上の必要なサービスを提供します。

【看護サービス】

主治医が看護サービスの必要性を認めたものに限り、訪問看護指示書に基づき、主治医との連絡調整をはかりながら必要な看護サービスを提供します。

(3) 宿泊サービス

当事業所に宿泊していただき、食事、入浴、排せつ等の日常生活上の援助や機能回復訓練を提供します。

(4) 相談・助言等

利用者やその家族の日常生活における介護等に関する相談及び助言、申請代行等を行います。

(5) 短期利用居宅介護サービス

宿泊室に空床がある場合であって、下記の要件を満たした場合、登録者以外の短期利用を提供します。

- ①登録者の数が登録定員未満であること
- ②利用者の状態や利用者の家族等の事情により、居宅介護支援事業所の介護支援専門員が、緊急に利用することが必要と認めた場合であって、当事業所の介護支援専門員が、当事業所の登録者に対する指定看護小規模多機能型居宅介護の提供に支障がないと認めた場合
- ③利用の開始に当たって、あらかじめ7日以内（利用者の日常生活上の世話を行なう家族等の疾病等やむを得ない事情がある場合は14日以内）の利用期間を定めること

（居宅介護計画）

第10条 当事業所のサービス提供を開始する際には、利用者の心身の状況及びその置かれている環境等を十分に把握し、個別に居宅介護計画を作成します。

2. 居宅介護計画の作成にあたっては、地域における活動への参加の機会の提供により、利用者の多様な活動の推進に努めます。
3. 看護サービスについては、看護師等と密接な連携を図り、利用者の希望・主治医の指示・看護目標及び具体的なサービス内容等を記載する。
4. 利用者の心身の状況及びその置かれている環境を踏まえ、他の関係介護職員との協議の上、援助目標を設定し、その達成のための具体的なサービスの内容等を記載した居宅介護計画を作成します。
5. 居宅介護計画の作成にあたっては、その内容について利用者またはその家族に説明し、利用者の同意を得ます。
6. 居宅介護計画を作成した際には、居宅介護計画書を利用者に交付し、援助の目標及び内容について利用者や家族に説明を行います。なお、交付した居宅介護計画書は、2年間保存します。
7. 利用者に対し、居宅介護計画に基づいてサービスを提供するとともに、継続的なサービスの管理、評価を行います。
8. 看護師は、看護小規模多機能型居宅介護計画に沿った看護サービスの実施状況を把握し、看護小規模多機能型居宅介護計画及び看護小規模多機能型居宅介護報告書に関し、定期的な主治医への提出を含めた必要な管理を行う。
9. 居宅介護計画の作成後においても、常に居宅介護計画の実施状況及び利用者の心身の変化等の

把握を行い、必要に応じて居宅介護計画の変更を行います。

(利用料)

第11条 提供する当事業所の利用料は、介護報酬の告示上の額とし、法定代理受領サービスであるときは、利用者の介護保険負担割合証に記載された割合の額とし、法定代理受領サービスでないときは介護報酬の告示上の額とします。ただし、医療保険の給付の対象となるサービス及び次に掲げる項目について、別に利用料金の支払いを受けます。

- ① 食事に要する費用
 - ② 宿泊サービスの宿泊に要する費用
 - ③ おむつ代
 - ④ レクリエーション活動等の費用
 - ⑤ 複写物の交付費用
 - ⑥ 利用者の衣服・下着等の洗濯に係る費用
 - ⑦ 前各号に掲げるもののほか、当事業所の中で提供されるサービスのうち、日常生活においても通常必要となるものにかかる費用で、その利用者が負担することが適當と認められる費用につき、実費をご請求します。
2. 前項に費用の支払いを含むサービスを提供する際には、事前に利用者またはその家族に対して必要な資料を提示し、当該サービスの内容及び費用の説明をした上で、利用者の同意を得るものとします。
 3. 前項に関して、厚生労働大臣が定める基準の変更、経済状況の著しい変化その他やむを得ない事由がある場合、相当な額に変更することとする。その場合事前に変更の内容と変更する事由について、利用者またはその家族に説明することとします。
 4. 利用料の支払いは、銀行振替（自動払込）により指定期日までに受けます。

(通常の事業の実施地域)

第12条 通常の事業の実施区域は次のとおりとします。

滋賀県彦根市（厚生労働大臣が定める中山間地域等の地域を除く）

(サービスの提供記録の記載)

第13条 当事業所のサービスを提供した際には、その提供日数及び内容、利用者に代わって支払いを受ける介護報酬の額、その他必要な記録を所定の書面に記載します。

(個人情報の保護)

第14条 利用者の個人情報を含む看護小規模多機能型居宅介護計画書、各種記録等については、関係法令及びガイドライン等に基づき個人情報の保護に努めるものとします。

(秘密保持)

第15条 事業所の従業員は、業務上知り得た利用者またはその家族の秘密保持を厳守するため、従業員でなくなった後も秘密を漏らすことがないよう、就業規則に記載するとともに誓約書を提出しなければなりません。

(苦情処理)

第16条

1. 提供した当事業所のサービスに関する利用者及び家族からの苦情に対して、迅速かつ適切に対応するため、受付窓口の設置、担当者の配置、事実関係の調査の実施、改善措置、利用者または家族に対する説明、記録の整備その他必要な措置を講じるものとします。具体的には、相談窓口から処理に至るまでの概要について、利用者またはその家族にサービス内容を説明する文書に、苦情に対する措置の概要について記載するとともに、事業所に掲示します。
2. 提供した当事業所のサービスに関する利用者及び家族からの苦情を受けた場合には、当該苦情の内容等を記録します。
3. 苦情がサービスの質の向上を図る上で重要な情報であるとの認識に立ち、苦情の内容を踏まえ、サービスの質の向上に向けた取り組みを行います。
4. 提供した当事業所のサービスに関し、法第23条の規定により市町が行う文書その他物件の提出もしくは提示の求めまたは当該市町の職員からの質問もしくは照会に応じます。また、利用者または家族からの苦情に関して、市町が行う調査に協力するとともに、市町から指導または助言を受けた場合においては、当該指導または助言に従って必要な改善を行います。
5. 提供した当事業所のサービスに係る利用者または家族からの苦情に関して国民健康保険団体連合会から指導または助言を受けた場合においては、当該指導または助言に従って必要な改善を行います。

(事故発生時の対応)

第17条 サービスの提供により事故が発生したときは、速やかに家族に連絡するとともに、必要な措置を行うものとします。

1. 事故の状況及び事故に際して採った処置について記録します。
2. 利用者に対するサービスの提供により賠償すべき事故が発生した場合には、損害賠償を速やかに行うものとします。
3. 事故が生じたその原因を解明し、再発防止のための対策を講じます。

(衛生管理)

第18条 サービス提供の際に使用する施設、食器その他備品等について、感染症等防止のための衛生管理に努め、衛生管理上必要な対策を講じるものとします。職員へは、研修や勉強会を通じ感染症対策や衛生管理に関する知識の習得を図ります。

(緊急時における対応方法)

第19条

1. サービス提供を行っているときに、利用者に病状の急変その他必要な場合には、速やかに主治医及び家族への連絡を行うとともに必要な措置を講じるものとします。
2. 主治医との連絡及び指示が得られなかった場合には、あらかじめ事業所が定めた協力医療機関へ連絡するとともに受診等の適切な処置を講じます。

(非常災害対策)

第20条

1. 当事業所のサービス提供中に天災その他の災害が発生した場合、職員は利用者の避難等適切な措置を講じます。また、管理者は、日常的に具体的な対処方法、避難経路及び協力機関等との連携方法を確認し、災害時には、避難等の指揮をとります。
2. 非常災害に備え、年2回以上の避難訓練を行います。
3. 非常災害の発生の際にその事業が継続できるよう、他の社会福祉施設との連携および協力をを行う体制を構築するよう努めます。

(運営推進会議)

第21条

1. 当事業所が地域に密着し地域に開かれたものにするために、運営推進会議を開催します。
2. 運営推進会議の開催は、おおむね2ヶ月に1回とします。
3. 運営推進会議のメンバーは、利用者、利用者家族、地域住民の代表者、地域を管轄する地域包括支援センターの職員、及び当事業所についての知見を有する者等とします。
4. 会議の内容は、事業所のサービス内容の報告及び利用者に対して適切なサービスが行われているかの確認、地域との意見交換・交流等とします。
5. 運営推進会議の報告、評価、要望、助言等についての記録を作成するとともに、当該記録を公表します。

(記録の整備)

第22条

1. 事業所は、職員、設備、備品及び会計に関する諸記録を整備します。
2. 利用者に対するサービスの提供に関する記録を整備し、その完結の日から2年間保存します。

(人権の擁護および虐待の防止のための措置)

第23条 事業所は、利用者の人権の擁護、虐待の発生又は防止のため、責任者を設置する等必要な体制の整備を行うとともに、職員に対し、研修の機会を確保する。

- 2 事業所における虐待の防止のための対策を検討する委員会（テレビ電話装置等を活用して行うことができるものとする。）を定期的に開催するとともに、その結果について、介護職員その他の従業者に周知徹底を図ること。
- 3 事業所における虐待の防止のための指針を整備すること。
- 4 事業所において、介護職員その他の従業者に対し、虐待の防止のための研修を新規採用時および定期的に（年1回以上）実施すること。
- 5 前3号に掲げる措置を適切に実施するための担当者を置くこと。

(サービス利用にあたっての留意事項等)

第24条

1. サービス利用の際には、介護保険被保険者証の提示を求めます。

2. 事業所内の設備や機材は本来の用法に従ってご利用ください。万一、故意にこれらの設備等を破損した場合、相当の料金を申し受けます。
3. サービスご利用時に金品等をご持参なさる場合は、自己の責任にて管理を願います。

(その他運営についての留意事項)

第25条 職員の質の向上を図るため、次のとおり研修の機会を設けます。

- (1) 採用時研修 採用後1か月以内
 - (2) 定期的研修 隨時
2. 職員等は、利用者の居宅を訪問時、所属を証明する所属証明書を携行し、利用者または家族から求められたときはこれを提示します。
 3. サービス担当者会議において、利用者の個人情報を用いる場合は利用者の同意を、利用者の家族の個人情報を用いる場合には当該家族の同意を、あらかじめ文書により得ておくものとします。
 4. 当事業所のサービス提供の開始に際し、あらかじめ、利用者申込者及びその家族に対し、運営規程の概要、従業員の勤務体制その他の利用申込者のサービス選択に資すると認められる重要な事項を記載した文書を交付して説明を行い、当該提供の開始について利用申込者の同意を得ます。
 5. 事業所の通常の事業の実施地域等を勘案し、利用申込者に対し自ら適切なサービスを提供することが困難であると認めた場合は、適当な他の看護小規模多機能型居宅介護事業者等の紹介その他の必要な措置を速やかに講じるものとします。
 6. この規程に定める事項のほか、運営に関する重要な事項は、管理者が定めるものとします。

付 則

1. この運営規程は、平成28年8月1日から施行する。
2. 令和元年10月1日一部改定
3. 令和3年4月1日一部改定
4. 令和4年10月1日一部改定
5. 令和6年3月31日一部改定